

## 「全鍍連」 2019年 12月号 理事長のよこがお

千葉県鍍金工業組合 理事長 福井 順子

「会社を引き継ぐということ」



千葉県鍍金工業組合の福井でございます。いつもお世話になり、ありがとうございます。青年部の方も一昨年前に発足以来、色々な青年部からお祝いをしていただいたり誘っていただいたりして多くの刺激をいただき、若い組合員は皆組合に加入した意義を感じさせていただいていると思います。

私ごとで恐縮ですが、私も昨年1月から息子・通人に社長を任せております。その前5年間、毎年「もういい？」と聞き続けましたが、その度に断られました。しかし、その度に成長しているのが分かり、一昨年、「もう無理だから！」と半ば強引に社長になることを承諾してもらいました。

私には男の兄弟がおらず、中高は女子校だったので男の子の育て方が分からず、頼みの主人も早逝してしまいました。しかし、少年野球の皆さん、学校時代のお友達、そして今、全鍍連の青年部や十日会の方々から沢山のことを学ばせていただいたり、刺激をいただいたりしております。

会社見学などをさせていただくと、立派に後を継いでいらっしゃる若い社長様方やそこから更に会社を発展させている立派な社長様方をお見受けし、「きっと先代の社長様が立派だったのだろう！」と思い、私の場合はどうすれば・と思う次第です。

男の社長さんは、息子さんが社長になるとほとんど退いてしまわれる方が多いのではないのでしょうか？私の父も私の主人が会社に入った時、遠慮して退いてくれました。しかし、バブルが弾けると同時に会社の屋台骨の製品であるゴルフシャフトがスチールからカーボンに代わり、赤字知らずの会社が大赤字に陥った時、主人は海外を模索し、「もう日本の景気はよくなるまいよ」と言って死んでしまいました。その時、父が「憎まれても一緒に仕事をすれば良かった」と呟いたのを覚えています。

これとは反対に、県の会でご一緒した若いのに立派に会社を立て直した社長さんに「息子を一人前の社長にするにはどうすればいいとお思いでしょうか？」とお聞きしたところ、「早く死んであげることですよ！」とのことでした。

今まで無我夢中で何とかやって参りましたが、決して生易しいとは言えない時代に「会長としてどうするのがいいのか？」先輩方には是非お教えいただきたいと思っております。

若い人達が元気な私達の業界は、きっと良い未来があると思います。そして、若者が元気でいられる業界を作ったのは、

現在のシニアの方々です！

幸い我が社の新社長も前向きに仕事をこなしてくれており、ほっとしておりますが、彼を含め、頑張っている我が業界の若い経営者達のために、簡単に「死んであげる」訳にもいかない我々シニアは、邪魔にならない様に自分を高め、陰ながら、しかも何かの時には役に立てる様に努力する・・と言うのが現在の私の結論です。

そして、千葉県鍍金工業組合は、先日第 1 回のシニア会を開きました。と言っても、「青年部の様に二次会は無理！」と言うシニアが美味しいお酒と食事をいただきながら楽しいひと時を過ごす仲良し会の様なものですが、これからも年 1 回位は開きたいと思っております。

全鍍連は、素晴らしい若い人たち同様、素晴らしいシニアの方々も沢山いらっしゃいます。素晴らしい先輩方にお教えいただきたく、紙面をお借りしてお願いする次第でございます。

